

リサーチコンプレックス形成推進

基金

イノベーション企画課
連絡先:022-214-4438
令和7年度当初予算額:116,535千円

事業概要

企業や大学などの研究開発拠点が集積する世界最先端のリサーチコンプレックスの形成を図る。

事業の詳細

ウェットラボ整備モデル事業

- 本市にてリサーチコンプレックス形成を推進しており、その重要要素の一つとしてウェットラボを位置づけ。
- 市内にある既存のウェットラボは部屋数が少なく、常にほぼ満床状態であることから、スタートアップ等が事業拡大に伴って広いウェットラボに移転する際に市外への流出が懸念される。
- ウェットラボを市内に増加させるため、整備モデルを創出する

● 予算額

整備モデルの補助金額:1億円

※ウェットラボ:実験装置や薬品等を用いる
科学実験に特化した施設



ウェットラボ(イメージ図)

研究開発拠点賃料補助

リサーチコンプレックスの一翼を担う研究開発企業の立地を促進するため、研究開発拠点へ賃料の一部を補助する。

- 交付額 賃料の1/3 (上限10万円/月、最大3年間)
- 対象エリア 都心部、青葉山、星稜、片平

ブランディング事業

専用ホームページを立ち上げ、本市のリサーチコンプレックスに関する概要や強み、支援制度等をPRして、企業などの参画を促進する。

台湾企業の誘致・協業・ビジネス創出（半導体産業振興）

イノベーション企画課半導体関連産業担当
連絡先:022-214-4439
令和7年度当初予算額:22,879千円

基金

事業概要

東北大学と台湾陽明交通大学の提携関係のもと、台湾企業の誘致、市内企業との協業、ビジネスの創出などに取り組む。関係機関と連携した人材育成の取り組みなどを通じて、地域における半導体関連産業の成長を支援する。

事業の詳細

陽明交通大学への職員派遣

- 令和6年9月から台湾の陽明交通大学(※)へ本市職員を派遣。東北大学の協力により、日本の大学や企業との窓口となる台日交流推進弁公室に勤務。
- ※ 陽明交通大学:半導体分野で世界最先端の研究開発を行う。新竹サイエンスパークの中心的役割を担い、TSMC等の半導体企業に多くの人材を輩出している。

台湾企業誘致や市内企業協業機会の創出

- 東北大学と陽明交通大学の提携関係のもと、新竹の半導体関連企業や研究機関とのネットワークを構築し、本市への誘致や市内企業との協業機会創出に取り組む。



陽明交通大学と新竹サイエンスパーク



関係機関と連携した半導体関連の取り組み

- 半導体メーカーと連携し、小学生などの若い世代に対し科学の出前授業などを行い、将来の半導体人材を育む。
- T-Seeds(東北半導体・エレクトロニクスデザインコンソーシアム)の活動を通じ、半導体人材の確保・育成のほか、サプライチェーンの強化について協力して取り組む。
- 東北大学との連携や関係機関の協力のもと、企業や学生、市民を対象としたセミナー等の開催を通じ、半導体に関する学びと交流の機会を提供する。



理科特別授業（出前授業）の実施

産業用地の確保に向けた取り組み

イノベーション企画課半導体関連産業担当
連絡先:022-214-4439
令和7年度当初予算額:8,822千円

基金

事業概要

物流や半導体関連産業等の新規立地のほか、市内企業の移転・増設の動きなども見据え、企業立地の基盤となる産業用地の確保に向けた検討を行う。

事業の詳細

産業用地の需要動向

- 郡山北目地区への次世代基幹物流施設をはじめ、物流2024問題などに起因する大型物流施設の立地計画が相次いでおり、既存の工業地の地価上昇が続いている。
- 仙台都市圏では、半導体関連産業の工場立地の動きが目立つ。

地域別・工業地の平均地価変動率（直近3年間）

工業地	2022年	2023年	2024年
全国	+2.0%	+3.1%	+4.2%
宮城県	+4.9%	+8.0%	+7.7%
仙台市	+9.3%	+14.1%	+16.1%

※国土交通省・地価公示価格より(各年1月1日時点の前年比)

- 令和6年度に実施した需要及び開発可能性調査では、本市の交通・輸送アクセスや労働力確保などの優位性が評価された。
- 蒲生北部地区については、令和6年5月に全37区画(約32ha)すべての事業者が決定し、引き渡しを完了している。

産業用地の確保に向けた取り組み

- 企業立地や土地価格の動向を踏まえた需要分析を行う。
- デベロッパーなど民間事業者へのヒアリングを行い、企業側のニーズを把握するほか、民間活力の活用による産業用地開発の事業手法などを検討する。
- 先行して取り組みを行う他自治体の視察を行い、開発の進め方や法規制への対応などの課題整理を行う。



蒲生北部地区・仙台港周辺の状況



郡山北目地区
次世代基幹物流施設完成イメージ

出典:三菱地所株式会社

事業概要

企業の開発ニーズ発掘から事業化まで一貫したコーディネートにより、東北大学の技術シーズを活用した産学連携プロジェクトを推進し、地域IT企業の成長促進・新ビジネスの創出・地域課題の解決を目指すことを目的に、東北大学情報知能システム(IIS)研究センター運営支援を行う。

事業の詳細

● 支援内容

- 地域産業・地域企業が抱える課題やニーズと、電気・情報系約60の研究室が持つ先端技術シーズのマッチングを行う。
- 企業出身のスタッフが、企業目線でのニーズオリエンテッドの産学連携をサポートし、地域IT企業による競争的資金獲得・研究開発・事業化を一貫して支援する。

● 支援事例

● 水産業×ITの取組

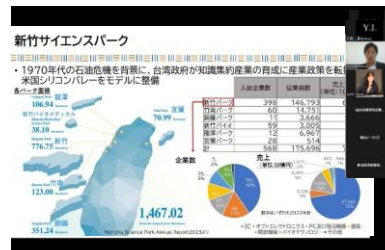
魚市場の現場における人手不足解消と生産性向上を目的として、AIを活用した魚種選別システムの開発を支援。



魚種選別実証実験

● マッチング支援の取組

AI、半導体などの技術シーズを活用したマッチングや、台湾など海外との連携強化を支援



台湾勉強会

【目標】

来訪・訪問件数(オンライン含む):延1000件

【スキーム】



I I S 研究センターの技術範囲

約60の研究室が持つ最先端技術

